

中城御殿跡地整備検討委員会(第1回) 議事録(概要版)

■主な委員意見と対応方針(★印は委員会時点で回答済み)

No.	項目	意見要旨	対応方針
1	検討委員会での検討対象地について	<ul style="list-style-type: none"> 松崎馬場の整備のみならず、風格ある首里のまちづくりには世持橋からの眺望や周遊促進につながる利活用の観点からも、龍潭一体を含めた検討が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 龍潭一体を含めた範囲とする。 →【資料3】1. 整備検討委員会における検討範囲 今年度は県道沿い石積みや階段について整備検討を行う予定のため、あわせて検討する。★
2	文化財指定を見据えた整備	<ul style="list-style-type: none"> 中城御殿の国指定史跡に向けた取組状況は。 	<ul style="list-style-type: none"> 発掘調査は完了しており、非常に良好な状態で遺構が残っていることを確認している。現在発掘調査の成果報告書を取りまとめており、文化庁とも調整を行いながら、史跡指定の手続きを進める予定。
3		<ul style="list-style-type: none"> 龍潭一帯は名勝指定を、中城御殿跡は国指定文化財をそれぞれ目標に、指定の後押しとなるような整備のあり方を検討すべき(龍潭園路、中城御殿石積みなど)。土木建築部と文化財課が連携してしっかり対応してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえて対応を検討する。 →【資料3】5. 文化財指定を見据えた整備のあり方(案)
4		<ul style="list-style-type: none"> 特別展示エリアは RC 造であるため、地下遺構の破壊が懸念される。施設整備の前提として遺構の保存に対してどのように考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物部分の遺構保護については、現行計画を踏襲し、保護砂と建物の不同沈下防止を兼ねた耐圧板の設置を行う計画とする。★ →【資料3】5. 文化財指定を見据えた整備のあり方(案)
5	整備の時代設定	<ul style="list-style-type: none"> 復元目標年代を改めてどうとらえるか。王国末期の中城御殿移転よりも以前にあった複数の屋敷遺構も地中に埋もれており、歴史的な背景を念頭にしつつ、いつの時代のものを重点的に整備するのか検討が必要。 将来的な課題として中城御殿跡や龍潭一帯の変遷など、時代的な見取り図を描いたうえで、現時点での問題を整理・検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 現行計画において復元の時代を設定済みであり、現行計画の「1874年～1945年」を踏襲する。 中城御殿跡地の歴史的変遷等は、発掘調査の成果を含めて、対象地の特徴や整備意義として再整理を行う。 →【資料3】2. 計画改定にあたっての基本的な考え方(案)

No.	項目	意見要旨	対応方針
6	展示・収蔵計画	<ul style="list-style-type: none"> 対象とする展示品に、中城御殿跡地の発掘で出土した遺物を加えるべきである。 容積確保のための特別展示エリアの一部2層化とは、史料に基づく復元を行って内部を2層化するのか、それとも形態を変えるのか。地下の活用も検討し形態は変えないことが望ましい。 特別展示エリアのみだと収蔵スペースは限られるため、表御殿西側エリアを含めた検討も必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 展示品の対象に出土遺物を加えた検討を行う。 →【資料3】3. 実物資料の展示・収蔵の考え方(案) 展示・収蔵部会で、特別展示エリアの必要規模や機能等の詳細を検討の上、第2回検討委員会では対応策(案)を提示する。 →【資料4】5. 施設の諸室計画(案)
7	防災対策	<ul style="list-style-type: none"> 木造の表御殿東側エリア、RC造の特別展示エリアという構成は、首里城正殿と他の建物と似た構成。首里城火災の教訓を踏まえた防火対策が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化庁のガイドラインや国の技術検討委員会、県の管理体制構築検討委員会の検討結果も踏まえ、防火対策の検討を行う。 →【資料3】4. 防災・防火対策の考え方(案)
8		<ul style="list-style-type: none"> 避難計画について、避難経路、避難スペースの確保など詳細な計画が必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえて対応を検討する。なお、詳細の計画については基本設計の段階で検討を行う予定。 →【資料5】1. 動線計画(案)
9	エリア別の用途の再検討	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ機能は現行計画策定時の地元要望も踏まえて、地域と中城御殿が関わるよう設定された。改めて地元のニーズ把握が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 首里杜地区内の住民を対象とするアンケート調査や地域団体等へのアンケート及び意見交換会を実施し、ニーズを把握する。 →【資料2】3. 主な意見のまとめ
10		<ul style="list-style-type: none"> 中城御殿の容積の制限があるため、コミュニティ機能について、新たに首里地区にできた公的な施設との役割分担も含めて再検討が必要。 展示計画の見直しに関連して、様々な機能が必要になる可能性がある。各エリアの用途について改めて検討すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 現行計画における中城御殿の必要機能について再度整理を行う。 →【資料4】2. 施設全体の必要機能(案)
11	外構・庭園の整備方針	<ul style="list-style-type: none"> 上之御殿エリアでは、石敷きの遺構などを露出させて活用してはどうか。 石垣の補修や整備の際には、土木基準の設計・施工ではなく、文化財整備の基準や文化財課によるチェックなど積み方への配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 遺構の保存、活用策、石垣等の整備手法等について、県文化財課と連携して対応する。 →【資料5】3. 遺構保護の考え方(案)

No.	項目	意見要旨	対応方針
12	敷地周辺の整備について	<ul style="list-style-type: none"> 正門石牆下から龍潭通りに飛び出している井戸(復元)は、歩道の安全上や文化財の活用の面から課題があるため、対策の検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状に対して暫定的な安全対策を行う。また、安全面、文化財面について、関係機関と調整のもと対策方法を検討する。
13	利用運営について	<ul style="list-style-type: none"> 中城御殿だけで完結せず、地域の他施設との連携を促進する役割も考えるべき。中城御殿と県立芸術大学、地域との連携や機能分担は重要である。 中城御殿跡周辺には、古道や名所旧跡等首里らしさが集積しており、そのなかにおける中城御殿の景観や文化資源としての評価や位置付けの検討が必要である。 中城御殿の外構整備やアクセス、周遊などの利用運営面の検討の際にも、そのような考え方の整理は必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 首里城公園及び周辺施設、文化資源との連携について、整理を行う。 →【資料3】2. 計画改定にあたっての基本的な考え方(案)